

29年度  
決算

# 国保会計累積赤字が縮小 (対前年度約5億円減)

厳しい財政状況への対応や複雑多様化する市民ニーズに対応するための施策への財源確保など、さまざまな財政上の課題がありますが、「公立認定こども園整備事業」「北島地区土地区画整理事業」などを実施し、市民サービスの充実を図りました。

2040年頃にかけて本市に迫りくる人口減少という危機を乗り越えつつ、厳しい財政状況へ対応するため「成長」と「健全化」を両立させる市政運営を行ってまいります。

問合せ先 財政課 ☎06(6902)5869

一般会計

◆歳入

28年度から約18億3000万円減少しました。

主な増減内容

- 市税…約2億7000万円増加
- 国庫支出金…約11億5000万円減少
- 繰入金…約8億2000万円減少
- 諸収入…約3億円増加
- 市債…約8億2000万円減少

◆歳出

28年度から約17億4000万円減少しました。

主な増減内容

- 扶助費…約3億円増加
- 公債費…約11億8000万円増加
- 補助費等…約16億7000万円増加
- 繰出金…約20億1000万円減少
- 普通建設事業費…約33億1000万円減少



特別会計

特別会計とは、特定の事業の収入（保険料や使用料など）によって実施する会計です。

◆国民健康保険事業特別会計

28年度と比べ累積赤字が約4億7000万円減少しました。

◆そのほかの特別会計

歳入歳出同額または累積収支が黒字となりました。

水道事業会計

◆収入 28億9998万円

◆支出 23億1611万円

※市民1人当たりの

1日平均使用水量…307ℓ

公共下水道事業会計

◆収入 37億3755万円

◆支出 35億6940万円

※公共下水道の

人口に対する普及率…90.9%

29年度 各会計別歳入歳出決算

会計名	歳入	歳出	累積収支額 (実質収支額)
一般会計	531億8527万円	531億7670万円	186万円
特別会計			
国民健康保険事業	185億4339万円	193億646万円	△7億6307万円
都市開発資金	-	-	-
公共用地先行取得事業	2億114万円	2億114万円	-
後期高齢者医療事業	15億6663万円	14億8460万円	8203万円
合計	734億9643万円	741億6890万円	△6億7918万円

※累積収支額（実質収支額）とは、歳入から歳出と翌年度繰り越し財源を差し引いた金額

市民1人当たりの歳出決算

- 福祉の充実…24万4747円
- 地域・文化振興、人権施策や防犯対策…4万6905円
- 道路等の整備…2万4218円
- 教育の充実…2万5927円
- 環境・衛生の向上…2万6899円
- 消防事業の向上…1万4046円
- 市債の返済…4万3920円
- その他…4621円



財政健全化指標

地方公共団体の財政の健全性を示す指標です。各比率が基準を超えると、財政健全化計画などを策定し、早期に改善に取り組む必要があります。

本市の比率はいずれも基準を下回っています。

	門真市	早期健全化基準	財政再生基準	説明
実質赤字比率	-	11.96%	20.0%	標準財政規模に対する一般会計などの赤字額の比率（赤字額がないため「-」で表示）
連結実質赤字比率	-	16.96%	30.0%	標準財政規模に対する市の全会計の赤字額の比率（赤字額がないため「-」で表示）
実質公債費比率	6.1%	25.0%	35.0%	標準財政規模に対する一般会計などが負担すべき市債償還金の比率
将来負担比率	51.2%	350.0%		標準財政規模に対する一般会計などが将来負担すべき負債の比率
資金不足比率	-	20.0%		事業規模に対する公営企業ごとの資金不足額の比率（水道・下水道会計ともに資金不足額がないため「-」で表示）

※標準財政規模…一般財源の標準的な大きさを示すもので、市で自由に使える財源規模



**TIGER**  
タイガー魔法瓶  
株式会社 (速見町3-1)

「Made in Kadoma」ついに宇宙へ!

門真市に本社を構える「タイガー魔法瓶株式会社」。同社と宇宙航空研究開発機構（JAXA）の共同開発による「真空二重断熱容器」を搭載した「このとり7号機」が、9月23日、H2Bロケットによって種子島宇宙センターから打ち上げられました。

今回は、開発の指揮を執られた同社の中井さんにお話を伺い、断熱容器開発のエピソードに迫ります。

貴重なたんぱく質を  
4℃で地球に持ち帰る

このとり7号機が国際宇宙ステーション（ISS）に到着すると、宇宙飛行士は無重力状態で実験したたんぱく質などを断熱容器に収納します。その後、容器は大気圏再突入用カプセルに格納され、ISSを離れて地球へと向かいます。大気圏突入時、カプセルの外部が1000℃以上の高温にさらされ、カ

プセル内部もその影響で温度が上昇するため、この容器は内部温度を保冷材のみで4℃に保つ断熱性能と、着水した際の衝撃にも耐える強度が求められます。

同社は約3年前にJAXAから依頼を受け、門真工場で3人のチームによる開発をスタートしました。

基本的構造は「水筒」と同じ!?

今回、宇宙へ飛び立った断熱容器は容量約14リットル、ステンレスできています。

「基本的構造は、お茶などを入れる市販のステンレスボトルの水筒と変わりありません」と中井さん。一方で開発には困難な課題もあったそうです。

同社は、100年近く魔法瓶などの断熱容器を製造してきた実績がありますが、宇宙という今まで経験したことのない過酷な環境で使



開発の指揮を執られた中井啓司さん

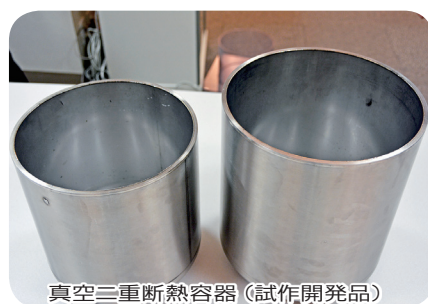


開発メンバー（左から）森俊彦さん、中井啓司さん、堀井大輔さん

用するのは初めて。断熱性や耐久性のほかに、1グラムでも軽くすることが必要で、完成まではトライ＆エラーの連続だったそうです。当初はうまくいかず半信半疑でしたが、約3年の歳月をかけた試行錯誤の末、永年培ってきた真空断熱技術をふんだんに注ぎ込んだ珠玉の「真空二重断熱容器」が完成したのです。まさに未知へのチャレンジ!

宇宙で温かい食卓を囲む日も

中井さんは語られました。「自分の作ったものが宇宙に行ったというのは、実感が湧かないですね。でも『下町ロケット』の町工場の方の想いに少し触れた気が



真空二重断熱容器（試作開発品）



真空二重断熱容器を搭載したH2Bロケット

©三菱重工/JAXA

します。これから人類はますます宇宙を往来するでしょう。人間である以上、温かいものを食べたいのは当たり前のこと。それは地球であっても宇宙であっても同じだと思います。宇宙でも地球と同じように温かく、おいしいものを作れるような調理器具が将来実現できればと考えています」

近い将来、宇宙で温かいご飯を食べられる日がやってくるかもしれません。

11月11日、カプセルは予定通り南鳥島近海に着水し、無事回収に成功しました。日本の宇宙開発史上の快挙に、門真のものづくりは貢献することができました。